



あなたの事業コンサルジュへ
弥生

<https://www.yayoi-kk.co.jp/>
所在地：
〒101-0021
東京都千代田区外神田 4-14-1
秋葉原 UDX 21F

概要

中小企業・個人事業主・起業家を対象にした各種業務ソフト開発と業務・事業支援サービスの提供

事業内容

- ・業務ソフトウェアおよび関連サービスの開発・販売・サポート

課題

- ・UIの合意形成プロセスの効率化
- ・UIの手戻りの削減
- ・販促ツールの内製化

ソリューション

Creative Cloud グループ版

デスクトップアプリ

- ・ Adobe Experience Design CC
- ・ Adobe Photoshop CC
- ・ Adobe Illustrator CC

モバイルアプリ

- ・ Adobe Photoshop Fix

サービス

- ・ Typekit
- ・ Creative Cloud マーケット
- ・ Creative Cloud ライブラリ

Adobe Stock (別売り)



弥生株式会社

UIデザインの合意形成にAdobe XDを活用 コミュニケーションミス削減に貢献

ベストセラー会計ソフト「弥生会計」で知られる弥生株式会社。業務ソフトウェアにおいて、UI(ユーザーインターフェイス)は製品イメージや使いやすさを左右する重要な要素になる一方、要件定義段階での合意形成には常に苦労が付きまっていた。同社は Adobe Experience Design CC(通称: Adobe XD)を活用することで作業を効率化し、コミュニケーションミス削減を実現している。また同社は、Creative Cloudによる販促ツールの内製化で、よりスピーディな対応とコストの削減を実現している。



導入メリット

UI/UX開発のスムーズな合意形成



Adobe XDで画面遷移を実際に体験できることで、より迅速な合意形成が実現した

ソフト開発後の手戻りを20%削減



UIをAdobe XDの画面上で確認できることで、イメージの違いによる手戻りが20%削減

内製化によるコスト削減



販促ツールや社内報を内製化。コスト削減とスピーディーな対応が可能になった

外出先での写真編集が可能に



モバイルアプリPhotoshop Fixで、外出先でも写真編集、広報活動もスムーズに

■トップシェアを誇る業務ソフトで小規模事業主を支援

弥生株式会社は、ベストセラー会計ソフト「弥生会計」で知られるソフトメーカーだ。主力商品である「弥生会計」「やよいの青色申告」をはじめとする各種業務ソフトは、中小企業・個人事業主・起業家に広く受け入れられ、17年連続でトップシェアを維持。登録ユーザー数は140万を超え、日本を代表する業務ソフトメーカーの一角としての地位をゆるぎないものになっている。

近年、「事業コンサルジュ」というキーワードを掲げ、従来の業務ソフトメーカーにとどまらないサービスを展開することもその特長の一つ。マーケティングコミュニケーションチーム 広報の谷口 祥子氏はこう説明する。

「お客様にとって、当社ソフトウェアを使うことは決して目的ではありません。その目的は、お客様が業務を完遂し、事業を成功させることにあります。こうした観点から当社は、例えば記帳時の仕訳に関する相談への対応など、従来のヘルプデスクにはないサポートを推進しています」

さらに「弥生会計 オンライン」をはじめとする、クラウド会計ソフトも積極的に展開。また取引内容を金融機関口座から自動で会計帳簿に取り込む「スマート取引取込」や、会計事務所とデータを共有し共同作業する仕組みなど、パッケージ製品とハイブリッドで利用できるクラウドサービスを提供し、一層の利便性向上を実現している。

■よりスムーズな合意形成に向け、いち早くAdobe XDを導入

「弥生会計」をはじめとする同社製品が小規模事業者にも広く受け入れられてきた理由の一つに、業務経験がない方でも直観的に使いこなせるUI(ユーザーインターフェイス)の存在がある。いうまでもないことだが、より使いやすいソフトウェアを開発する上でUIはとて大きな意味を持つ。その一方で、UIの変更はソフトのロジックに影響を与えることも多いため、要件定義の段階で固めていく必要があるなど、そのデザインには固有の難しさがあるのが実情だ。特に難しいのが、ステークホルダー間のコンセンサスを巡る課題だ。一般に、ソフト開発に先立つUIのコンセ



開発本部 システム開発部
テクニカルリーダー
田中 良文氏



マーケティング本部 マーケティング部
マーケティングコミュニケーションチーム
広報
谷口 祥子氏



マーケティング本部 マーケティング部
マーケティングコミュニケーションチーム
麻谷 亜弥氏

マーケティング本部 マーケティング部
マーケティングコミュニケーションチーム
中川氏

ンサスは紙ベースで行われることが多い。その結果、どうしても「イメージと違う」という問題が生じてしまうことがその理由だ。同社製品のUIを担当する、開発本部 システム開発部の田中 良文氏は言う。

「UIデザインは、開発部門、マーケティング部門、カスタマーセンターなど、関連する各部門の合意形成が重要になります。これまではオフィスソフトで作った資料を紙出力し、プレゼンテーションしてきたのですが、それではステークホルダーに実際のイメージが伝えにくいという課題を常に感じていました。UIプロトタイプ開発など、さまざまな方法を試してみましたが、工数の割には効果が見えないのが実情で、もっと簡単に合意形成できる方法はないのかと悩んでいました」

そうした中、田中氏が出会ったのが、アドビのUIデザインツール、Adobe XDだった。以前からアドビ製品を利用してきた田中氏にとって、操作感が既存のアドビ製品と共通することも導入を決断する要素の一つだったという。

■画面上でUIを確認し、コミュニケーションミスを削減

Adobe XD導入効果として田中氏が真っ先に挙げるのは、画面の動作確認を実際に体験できる点だ。

「プレゼンテーションする側にとっての一番のメリットは、やはりボタンを押すことで画面がどう変わるかを画面上で実際に体験してもらえる点にあります。紙と言葉でどれだけ説明しても限界がありますが、実際に見て、触ってもらえればダイレクトに理解してもらえますからね。その結果、導入前と比較するとコミュニケーションミスが約20%発生しにくくなったことがAdobe XD導入の最大の効果だと考えています。すごく省力化につながっていますね」

また制作したデザインが、画面遷移も含めてシェアできる点も評価するポイントの一つ。シェア用のリンクを作成し、それをステークホルダーに知らせることで、ブラウザ上で実際の動きを確認してもらうことが可能だ。

■Creative Cloudの最新バージョンが業務効率化に貢献

迅速な対応やコスト削減という観点から、販促ツールやWebサイト、社内報などの内製化を積極的に推進していることも同社の特長の一つ。ここでは、Photoshop CC、Illustrator CCなどのツールがフルに活用されている。Webサイトのコーディング、バナー作成などを手掛けるコミュニケーションチームの中川氏は言う。

「Webサイト制作の場合、グラフィカルなものは社外の制作会社に依頼していますが、バナー作成や修正、更新などの作業は基本的に社内内で対応するほか、社内で一からページを作る場合もあります。これまで使ってきたCreative Suite 3に較べると、Creative Cloudは、操作性が大幅に向上していることを実感しています。例えば、画像のカラーや色調の調整が一元的に行える調整レイヤーはその一つです。Creative Cloudへの移行は、業務効率に貢献していますね」

■企業イメージ刷新にアドビクラウドサービスを活用

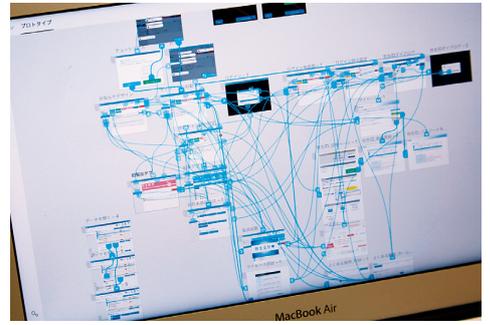
販促ツールや社内報を手掛けるコミュニケーションチームの麻谷氏が高く評価するのは、アイコンやベクター画像を提供するCreative Cloud マーケットや6,000万点を超える高品質な画像を提供するAdobe Stockといったクラウドサービスである。これらのサービスは特に社内報の制作で活用されているという。

「業務ソフトメーカーとして長年にわたる実績を持つ当社は、その一方で、古いという印象も持たれがちです。それだけに当社はこうした印象を払拭し、他社にない先進的な取り組みを伝えることに力を入れています。それは、完全内製化している社内報も同じですが、販促ツールとは違ってコストが掛けられないという事情があるだけに、高品質な写真やイラストが安価で入手できるサービスにはとても助けられます」

マーケティングコミュニケーションチーム 広報の谷口氏は、Photoshopのプロ向け編集ツールをモバイル操作で利用できるPhotoshop Fixの活用を検討している。イベント会場で撮影した画像を、現場で加工し、ソーシャルメディアにアップすることで、より臨場感のある情報を広報として速やかに提供できることを想定している。

「これまでイベント会場で撮った写真は、一度会社に戻り、明るさを調整したり、サイズを変更した上でソーシャルメディアにアップしていたため、手間や時間がかかっていましたが、Photoshop Fixを使えば、それを現場でできるようになるため便利です。あと会社支給のスマートフォンには会社承認のアプリがインストールできないのですが、アドビのモバイルアプリなら安心してインストールできます」(谷口氏)

同社はこれからもCreative Cloudグループ版を活用し、お客様に向き合い、利便性向上に努めていく考えだ。



UI デザインは開発前段階から Adobe XD で画面遷移などのプレゼンテーションに活用。実際の動きなどを簡単に表現できるため、ステークホルダーとの合意形成に大いに役立っている



マーケティングコミュニケーションチームでは、同社のさまざまな販促ツール作成から、コーポレートサイトや社内報 SNS などの運用を担当。Creative Cloud を活用し制作の内製化を進めており、画像に Adobe Stock を利用している

※本事例の掲載内容は2017年1月時点の情報です。

Adobe Creative Cloud グループ版に関する詳細

<http://www.adobe.com/go/cct>



アドビ システムズ 株式会社
〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー
www.adobe.com/jp/
Adobe Systems Incorporated
345 Park Avenue
San Jose, CA 95110-2704
USA
www.adobe.com

Adobe, the Adobe logo, Creative Cloud, Illustrator, and Photoshop are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated, in the United States and/or other countries.

Adobe, the Adobe logo, Acrobat, Adobe PDF logo, and Reader are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.
© 2016 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Printed in Japan.